



軽防協ニュース速報

2012年第4四半期(10月－12月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

2013年3月配信

オーストラリアからの報告提供時期の変更に伴い、同国のレポートは、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。以下に、2012 年第 3 四半期のレポートを記載する。第 3 四半期のために報告された情報であることに注意していただきたい。その後、その他の国の 2012 年第 4 四半期のレポートを通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2012 年第 3 四半期の報告

Animal Health Australia (AHA)

Animal Health Surveillance Quarterly (AHSQ)

(<http://www.animalhealthaustralia.com.au/status/ahsq.cfm>)

州および準州の報告

オーストラリアでは、動物の疾病管理に関しては、州と準州がそれらの領域内で責任を負っている。国内動物衛生プログラムは動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局 (AHA) によって管理されている。

クイーンズランド州

(クイーンズランド農林水産部、グレッグ・ウィリアムソンによる報告)

ヘンドラウイルス

第 3 四半期中、ヘンドラウイルス感染症の検査を担当する研究所に 163 件の検査依頼があった。これらのほとんどは、ウマの発熱、神経症状および呼吸器症状に関連したものであった。疾病調査に加えて、48 件の検査は輸出前の健康診断、州間の移動もしくは獣医師によるハイリスクな処置に関連するものであった。第 3 四半期中、3 件の新たなヘンドラウイルス感染症が確認された。3 件の内訳はロックハンプトンでの 1 件 (7 月に 3 頭) およびケアンズ行政地区での 2 件 (7 月に 1 頭、9 月に 1 頭) であった。今回の発生施設において監視下に置かれたハイリスク馬群および前回のマッケイでの発生施設 (6 月の 1 症例 ; AHSQ Vol. 17-2 参照) の計 3 施設での検査を含め、検査依頼のあったその他の検体は全て陰性であった。

2012年7月下旬、9ヶ月齢の牡馬がロックハンプトン郊外の施設で死亡した。症状の発現から死亡までは短期間であった。この牡馬には運動失調、旋回および沈鬱症状が認められた。死亡した牡馬は他の2頭のウマと同じパドックで飼育されており、接触があったことが確認されていた。鼻腔および口腔スワブと死亡後36時間での凝固血のPCR検査が実施され、陽性が確認された。この施設は検疫下に置かれ、ウイルスに暴露されていた可能性のある2頭のウマと2匹のイヌに対して監視および検査が実施された。10日後、1頭のウマが神経症状および沈鬱症状を呈した。2頭のウマに再検査が実施され、有症状馬の方は安楽死の処置がとられた。鼻腔スワブおよび血液検査により、2頭ともPCR陽性が確認された。残った1頭も沈鬱、運動失調および失明の症状が出現し、2症例目の安楽死処置の24時間後に安楽死処置が実施された。2匹のイヌは臨床的に異常もなく、3クール目のPCR検査および24日間隔の血液検査で陰性が確認され、検疫は解除されることになった。

第3四半期中、さらに2件の陽性事例がケアンズ行政地区で確認された。短期間の発熱性疾患後の死亡に関連する2事例であった。陽性が確認された2施設およびハイリスクの近隣施設1施設が検疫下に置かれた。罹患馬に接触し、感染の可能性があったウマおよびイヌに対し、監視および検査が実施された。全てのハイリスク動物は臨床的な異常もなく、3クール目のPCR検査および血液検査で陰性が確認され、検疫は解除された。

ウマ用ヘンドラウイルスワクチン

クイーンズランド州農林水産部バイオセキュリティ当局は、2012年11月1日に民間製薬会社よりウマ用ヘンドラウイルスワクチンが発売されたと発表した。このワクチンは使用を制限する特殊な条件下で販売され、製薬会社が作成したオンライントレーニングに合格した獣医師のみがワクチンを投与できる仕組みになっている。

ワクチンの詳細は、www.daff.qld.gov.au/4790_2900.htm、www.health4horses.com.au

ニューサウスウェールズ州

報告事項なし。

ヴィクトリア州

報告事項なし。

南オーストラリア州

報告事項なし。

西オーストラリア州

報告事項なし。

タスマニア州

報告事項なし

ノーザンテリトリー

報告事項なし。

2012年第4四半期の報告

アルゼンチン

報告未着。

オーストラリア

冒頭で述べたとおり、2012年の第3四半期の報告は、上記の通りである。

カナダ

馬伝染性貧血 (EIA)

9月1日から12月31日の間、21件の新たなEIA陽性馬が確認された。内訳はユーコン準州(8頭)、アルバータ州(2頭)およびサスカチュワン州(11頭)であった。これらの陽性例は6カ所の異なる施設で確認された。内訳はユーコン準州(1施設)、アルバータ州(2施設)およびサスカチュワン州(3施設)であった。アルバータ州の1施設では2011年にも陽性例が報告されていた。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告事項なし。

フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークのRESPEから提供された情報)

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

2012年11月30日にオート・サヴォワ県で1症例の報告があった。また、12月19日には2頭のサラブレッド種で報告があった。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

2012年10月8日、イブリーヌ県の乗馬施設で1件の発生が報告された。罹患馬はワクチン接種されていた。臨床症状は硬直であった。脳脊髄液のPCR検査により陽性と診断された。

10月15日、2件目の発生がイブリーヌ県で確認された。2頭のワクチン未接種フレンチサドルブレッド種が嗜眠、運動失調および浮腫の臨床症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査により陽性と診断された。

11月12日、3件目の発生がイブリーヌ県で確認された。罹患馬はワクチン接種済のフレンチサドルブレッド種で鼻漏、運動失調、運動麻痺および硬直の臨床症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査により陽性と診断された。

4例目は12月10日に確認された。オルヌ県のワクチン接種済のサラブレッド種繁殖馬であった。横臥、硬直および異常行動の臨床症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査により陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

2012年10月12日、マイエンヌ県でEHV-1の発生が確認された。5頭のフレンチ Trotter種が罹患し、鼻漏を認めた。鼻腔スワブのPCR検査により陽性と診断された。

10月24日、イブリーヌ県でEHV-1による呼吸器疾患の発生が確認された。2頭のワクチン接種済フレンチサドルブレッド種が罹患し、鼻漏、発熱および浮腫の症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査で陽性と診断された。

12月3日、エソーネ県の乗馬施設で1例の発生が確認された。罹患馬はワクチン接種済のフレンチサドルブレッド種で発咳、鼻漏および発熱の症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査で陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

サラブレッド種5頭、ポニー種2頭、フレンチサドルブレッド種1頭およびフレンチ Trotter種1頭を含む13件の発生が報告された。発生地域はコート・ダルモール県、ノルド県、ウール・エ・ロワール県、カルヴァドス県、マイエンヌ県、イブリーヌ県、パ・ド・カレー県、ヴォージュ県およびオルヌ県であった。ある2施設の罹患馬は発咳、鼻漏および発熱症状を示した。また、ある2施設では発咳および鼻漏であり、他の2施設では鼻漏と発熱の臨床症状を示した。

馬インフルエンザ (EI)

10月31日、セヌ・エ・マルヌ県において1件の発生が確認された。罹患馬はコネマラポニー種で発咳、鼻漏および発熱症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査により診断された。5頭の有症状馬のうち、3頭が陽性と診断され、2頭が死亡した。

2件目の発生は10月31日にフィニステール県で確認された。罹患馬はコネマラポニー種3頭で発咳、鼻漏および発熱症状を示した。

11月5日、マイエンヌ県でも発生が確認された。罹患馬はコネマラポニー種で、発咳、鼻漏および高熱症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査により診断された。8頭の有症状馬のうち、3頭で陽性が確認された。

これら3件の発生は数百頭が取引され、多くの国に輸出されたアイルランドでのセール中に購入されたコネマラポニー種と疫学的に関連があった。

馬ピロプラズマ病

フランスでは、風土病として存在している。

ドイツ

馬伝染性貧血 (EIA)

第3 四半期中のラインラント・プファルツ州およびノルトライン・ウェストファーレン州での数件の発生に続き、2012年10月1日にケルン競馬場で陽性事例が確認された。ケルン市当局は、発生後に同施設で継続されてきたすべての規制を2013年1月4日に解除すると発表した。

罹患馬の安楽死処置後、ケルン競馬場の全在厩馬の血液サンプルが採取され、ウイルス抗体検査が実施された。当局によるとすべてのウマは3ヶ月間隔で2回の検査が実施され、すべて陰性であった。清浄化、消毒等の防疫対策は完遂され、2013年1月2日の検査時点で施設内に有症状馬は存在しなかった。

Dr. Boese研究所有限会社 (HBLBのCEMO認定研究所) による検査結果

サルモネラ症

3施設3頭(2歳の種馬、仔馬および2歳のセン馬)で感染が確認された。菌培養および糞便サンプルのPCR検査により陽性と診断された。

馬インフルエンザ

18歳のフリージアン種1頭で感染が確認され、発熱、発咳および鼻漏の症状を示した。鼻腔スワブのPCR検査により陽性と診断された。

ロタウイルス感染症

1頭の非サラブレッド種で感染が確認された。糞便サンプルのantigen ELISA法により陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

2施設2頭の非サラブレッド種で感染が確認された。鼻腔スワブのPCR検査により陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

2施設2頭の非サラブレッド種で感染が確認された。1例目は子宮内膜スワブのPCR検査、2例目は鼻腔スワブおよびEDTA血液のPCR検査により陽性と診断された。

香港

報告事項なし。

アイルランド (共和国)

サルモネラ症

10月にウェストミーズで1例の報告があった。

腺疫

9症例の報告があった。内訳は10月に2症例(コーク州1症例、スライゴ州1症例)、11

月に4症例（ドンジュール州2症例、キルデア州1症例、コーク州1症例）、12月に3症例（全てミーズ州）であった。

イタリア

ウエストナイルウイルス感染症（WND）

2012年の発生数は計30件に達した。分類は以下の通りである。

臨床症状を伴う発生件数	13
発生施設内頭数	313
陽性頭数	63
臨床症状を伴う陽性頭数	15
死亡数	3
	%
罹患率	20.13
有症状馬の罹患率	23.81
死亡率	20.00

（参照）

http://sorveglianza.izs.it/emergenze/west_nile/pdf/bollettinogionaliero/bollettinoWND2012_en.pdf

交疫

繁殖市場に流通した種牡馬もしくは繁殖牝馬における陽性例の報告はなかった。しかし、食肉用馬において複数の陽性例の報告があった。

2012年は34,464頭のウマに検査が実施され、47頭が血清学的に陽性（0.14%）と診断された。有症状馬は確認されなかった。

日本

ウマヘルペスウイルス-1（EHV-1）による流産

2012年12月17日および23日に発生が確認された。2頭のサラブレッド種は異なる施設で繋養されていた。北海道日高家畜保健衛生所においてウイルス分離により診断された。1頭はワクチン接種されていた。

ウマヘルペスウイルス-4（EHV-4）による呼吸器感染症

2012年12月21日、1施設13頭のサラブレッド種で発生が確認された。北海道日高家畜保健衛生所における鼻腔スワブのPCR検査により診断された。

破傷風

2012年11月12日、1頭のサラブレッド種で発生が確認された。臨床症状により診断された。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ共和国

報告未着。

韓国

報告事項なし。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器感染症

1施設、約7頭で感染が確認された。最終報告は12月19日であった。発生は限局的であり、診断はウイルス分離により実施された。多くは上気道症状を呈し、1頭は神経症状も伴っていた。

腺疫

4件の非サラブレッド繋養施設で発生が確認された。診断は菌分離によって実施された。

スイス

馬ピロプラズマ病 (*Theileria equi*)

10月に1例報告があった。

腺疫

10月に1例報告があった。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦

馬伝染性子宮炎 (CEM)

11月14日に1件の発生が確認された。1牧場から3頭の種牡馬がシャルジャに移動した際に精液検査とルーチンのCEMスワブ検査が実施された。3頭中2頭はPCR陽性、1頭は菌

培養にて陽性であった。臨床症状は認めず、接触した全馬が PCR 陰性であった。陽性馬の 1 頭は、昨シーズンドイツで繁殖用馬として繋養されていた。これらの種牡馬は治療後に 3 回の検査が実施され、陰性が確認された。分離された菌は感染源の特定のため、塩基配列解析に提出された。

馬ピロプラズマ病 (*Theileria equi*、*Babesia caballi*)

アラブ首長国連邦では、非サラブレッド種における馬ピロプラズマ病は風土病であり、定期的に症例報告がある。ドバイの中央獣医学研究所 (CVRL) において血清学的検査および病原体の分離によって診断が実施されている。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 3 四半期中およびそれ以降の臨時報告としてすでに発表していることに注意されたい。なお、以下に Defra (英国環境・食料・農村地域省) の情報に基づくイギリス国内の EIA 発生状況の要約を記載する。

馬伝染性貧血 (EIA)

10 月 3 日、2 頭のウマで EIA の発生が確認されたのに伴い、接触のあったウマの検査および追跡調査が実施された。

感染が確認されたコーンウォール州の施設の 25 頭のウマに対して、90 日間隔で 2 度の検査が実施された。結果は陰性で、2013 年 1 月 8 日に種々の規制は解除された。感染の確認された施設から移動した 1 頭のウマは近隣 2 施設の 4 頭のウマと接触があったため、これらの計 3 施設のウマについても検査が実施されたが、全て陰性で規制は解除されている。

今回の感染馬は 2008 年にベルギーからコーンウォール州に輸入された他の 18 頭とともに輸入された。それらのウマの 1 頭は既に 2010 年に陽性が確認され、安楽死処置が実施されている。同ロットで輸入されたもう 1 頭のウマはデボンの施設で繋養されており、2012 年 10 月 18 日、陽性が確認され、安楽死処置が実施された。この施設の残り 10 頭については現在検査および移動制限が実施されている。

2 件目の摘発となったデボンの施設からは 2 頭のウマが移動しており、現在追跡調査されている。これらの 2 頭は検査および移動制限中である。

まとめとして、2008 年にベルギーから同ロットで輸入された 18 頭中 14 頭は追跡可能であった。内訳は陽性 3 頭、陰性 9 頭、すでに死亡したウマが 2 頭であった。積極的な追跡調査は終了したため、残る 4 頭の追跡は困難となった。

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

Clostridium Perfringens タイプ A に関連する仔馬の腸炎がケンタッキー州およびその他多くの州で散見された。

偽結核 (*Corynebacterium Pseudotuberculosis*)

この細菌感染に関連する疾患の報告が増加しており、過去の症例と比較しても地理的に

感染が拡大している。多くの州で大規模な発生が報告されている。

東部馬脳炎 (EEE)

累計症例数は第3四半期の報告から42頭増加し、213頭となった。ルイジアナ州、ミシシッピ州およびフロリダ州での発生報告が最も多かった。

ウマヘルペスウイルス感染症 (EHV)

ケンタッキー州の多くの施設において、血清学的検査により EHV-1 および EHV-4 の感染が確認された。2頭のサラブレッド種で EHV-1 感染による流産が確認された。また、2件の EHV-1 脊髄脳症の発生が確認され、それぞれイリノイ州の競馬場およびミネソタ州の牧場での発生であった。イリノイ州での発生では、12月の非致死的な EHV-1 の流行に加えて、計5頭のウマが死亡もしくは安楽死処置となった。ミネソタ州の発生では7頭中5頭が感染し、1頭が安楽死となった。また、EHV-2 および EHV-5 感染症はカリフォルニア州、ケンタッキー州およびテキサス州の多くの施設で確認された。

馬インフルエンザ

カリフォルニア州、ケンタッキー州、ミズーリ州、ワシントン州およびその他の州で報告されている。

馬単球性エールリヒア症 (馬のポトマック熱)

ケンタッキー州で2症例が確認された。発生数は2012年前半と比較して減少している。

馬ピロプラズマ病

調査期間中、200,000頭を超えるウマに対して馬ピロプラズマ病の血清学的検査が実施された。ここ3ヶ月間、新たな陽性馬は確認されていない。

ローソニア腸炎

第4四半期中、ケンタッキー州で数例の *Lawsonia intracellularis* 感染例の報告があった。

レプトスピラ症

第4四半期中、ケンタッキー州で16頭のレプトスピラ症による流産の報告があった。

ロドコッカス症

ロドコッカス・エクイ感染症は風土病として広く全土に分布しており、症例や流行に関して全てが報告されるわけではない。第4四半期も非常に多くの症例が確認された。

サルモネラ症

数州から報告があった。いくつかの流行について、菌系統は同定されていない。一部の流行ではサルモネラ B 群に関連した症例報告があった。

腺疫

様々な州で風土病となっており、2012年下半期の流行は拡大傾向にあった。1件もしくは複数件の発生が確認されている州は、ケンタッキー州、ミシガン州およびペンシルバニア州であった。

水胞性口炎

第4四半期に新たに1施設での発生が報告され、2012年の感染施設数は36に増加した。

直近の発生は、ニューメキシコ州サンミゲル郡での発生であった。2012年のアメリカ全土での発生はニューメキシコ州の10郡34施設、コロラド州の2郡2施設であった。ウイルスの血清型はすべてニュージャージー型であった。2州とも感染施設の検疫は解除されている。

ウエストナイル脳炎 (WNE)

11月20日以降、9症例が新たに報告され、年間症例数は654頭に達した。2012年はヒトおよびウマの症例数が示す通り、ウエストナイルウイルスの活動が活性化した1年であった。ウマの症例報告はテキサス州で断然多く(117症例)、ルイジアナ州(62症例)、ペンシルバニア州(50症例)、カリフォルニア州(46症例)、オクラホマ州(42症例)と続いた。症例は42州で報告された。

ベネズエラ

報告未着。